

歴史探訪 Historia ヒストリア

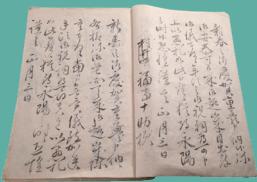
めでたいものあつまれ！



写真 企画展で展示中の明治時代の年賀状

人とつながる
— 年始状から年賀状へ

年の初めのあいさつを文書で伝える習慣は、平安時代にまでさかのぼると言われています。市内で確認できる最古の例は、江戸時代の「年始状」です。川之江村で船着き場の管理や警備を担っていた「浦手役」の記録である「長野家文書」には、この地域を管轄していた代官などに宛てた年始状の控えが残されています。その文面は格式を重んじつつも、新年を迎えた喜びを伝える内容で、現在の年賀状の原型とされます。



文化4(1807)年の年始状の控え。年始のあいさつをと、良好な関係の継続と願う言葉が記されている

明治時代に郵便制度が整うと、この習慣は庶民にも広がり、私たちになじみ深い年賀状の形が定着しました。年始のあいさつを通じて人と人がつながる文化は、今も変わらず受け継がれています。

色鮮やかな版画広告 — 引札

江戸時代後期、版画技術の発展に

新年の風習には、神聖な存在と深く結び付いたものがいくつもあります。徳島県発祥の「三番叟まわし」など、さまざまな場面で人々を祝つてきた「めでたい」文化。デジタル化や生活様式の変化により姿を消しつつある風習もありますが、現在開催中の企画展で、今一度地域に残る伝統に目を向けてみませんか。

明治時代に郵便制度が整うと、この習慣は庶民にも広がり、私たちになじみ深い年賀状の形が定着しました。年始のあいさつを通じて人と人がつながる文化は、今も変わらず受け継がれています。

三番叟まわしでは、神の使いとされる4体の木製人形「木偶」を訪問先で舞わせ、その家に福を呼び込みます。江戸時代に始まったとされ、

特に年末年始に配られた「正月用引札」は、福神や縁起の良い動植物が多色刷りで鮮やかに描かれており、現代の「新春初売りチラシ」の源流と言えます。

市内にも正月用引札が残されており、この地域でも新年を彩る風習として親しまれていたことが分かります。



市内の商店が発行した正月用引札。大黒と恵比須が商売道具らしき物と共に描かれている

神とのつながり
— 三番叟まわし

新しい年の始まりや人生の節目など、さまざまな場面で人々を祝つてきた「めでたい」文化。デジタル化や生活様式の変化により姿を消しつつある風習もありますが、現在開催中の企画展で、今一度地域に残る伝統に目を向けてみませんか。



今も新宮地域を訪れている三番叟まわし（2024年撮影・新宮町上山）

長く正月行事として受け継がれてきました。昭和後期には姿を消しつつありましたが、現在は「阿波木偶箱まわし保存会」によって再び各地の家庭に福を届けています。

企画展「めでたいものあつまれ！」
1/31(土)～3/29(日) **¥0 FREE**

四国中央市歴史考古博物館
・高原ミュージアム・

縁起物の絵画や工芸品、習俗など、めでたいモノ、コトにまつわる資料を紹介。

学芸員による展示解説

2/28(土)、3/1(日)
13:30～(30分程度)

問 歴史考古博物館 - 高原ミュージアム -
☎ 28-6260 📌 川之江町 2217-83